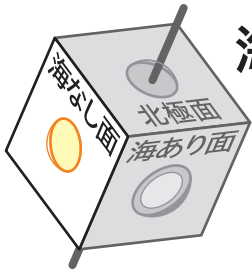




# 立方体地球模式図

【縮尺:1億分の1】



## 海なし赤道面

【側面】

### ハビタブルゾーン

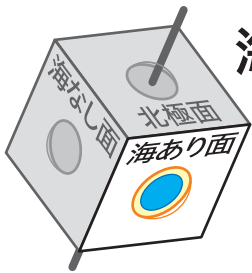
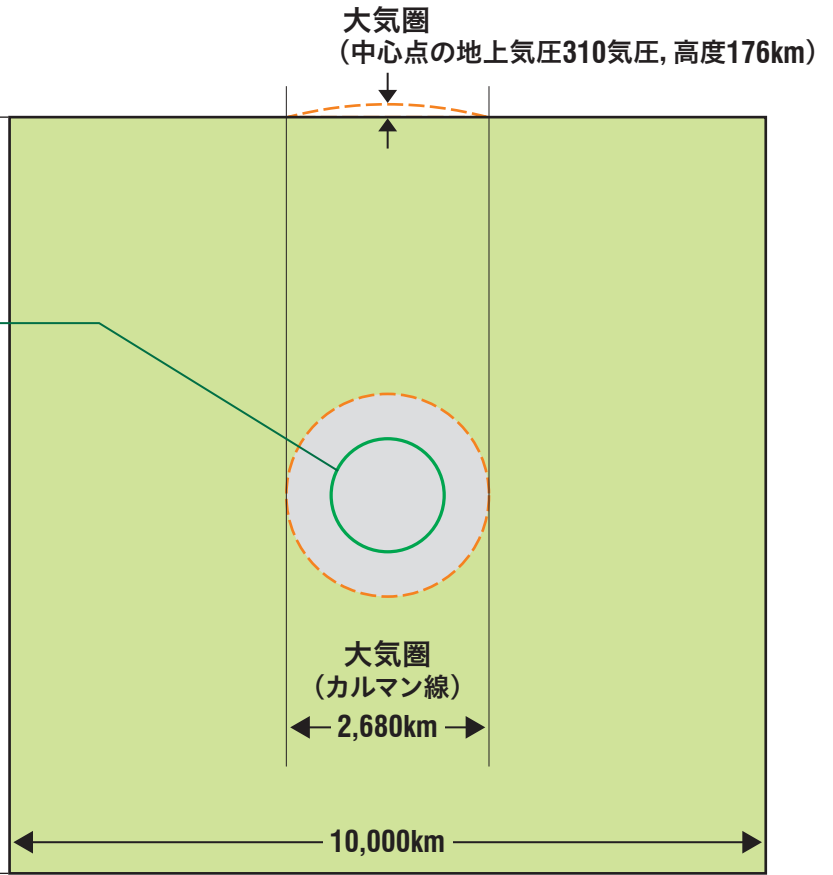
(生命生存可能域: 0.5~1.0気圧帯)

中心から726km~769kmの間, 幅43km

面積: 201,855km<sup>2</sup>(日本国土378,000km<sup>2</sup>の約半分)

平均斜度: 8.5度

【正面】



## 海あり赤道面

【側面】

### ハビタブルゾーン

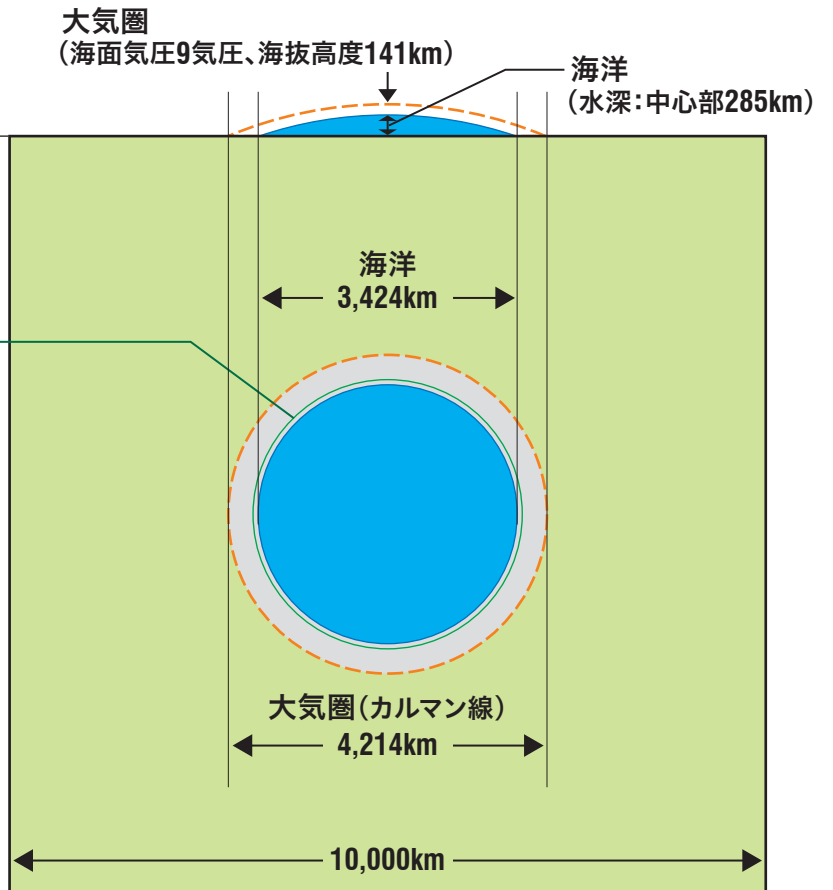
(生命生存可能域: 0.5~1.0気圧帯)

中心から1,771km~1,789kmの間, 幅18km

面積: 201,211km<sup>2</sup>(日本国土378,000km<sup>2</sup>の約半分)

平均斜度: 19.6度

【正面】



### ■ハビタブルゾーン

生物が生きていくためには、適度な温度、気体の酸素の存在、液体の水の存在が必要だと考えられています。この生物が生きていくことができると考えられる領域を、ハビタブルゾーンといいます。

### ■カルマン線

国際航空連盟によって定められた大気圏と宇宙の境界線で、100万分の1気圧、丸い地球では海拔高度100kmに位置する。